

<平成27年度 体験記の部 佳作>

私と交通安全

相手の目線や考え方に立って運転する

(関東) E運(株) E. S

先日、父親が足にケガをしてしまい、しばらくの間、車イスを必要とする生活をしいられ、私が父を病院まで車イスをおして行ってあげたりする事も何度かあったんですが……、

ある日、病院の前で父をおろし、父の診察中表で父を乗せてきた車イスに「ちょっと休憩」と、腰掛けてみたんです。

その時です。

歩道の私のすぐ隣に、ゴミ収集のパッカー車が信号待ちの為、停車しました。ガードレール越しですが、1mもないほどのそばに止まるパッカー車に何か威圧感を受け、私は気付くと無意識の内に車イスから立ち上がってしまっていました。

私は現在、「新運転」という運転車組合から都内のゴミ収集をしている会社に斡旋してもらい、清掃事業に従事しています。

ですからパッカー車は毎日見えていますし、そんなに驚くような事ではないはずなのですが、車イスに座っていて少し気も緩んでいたのと、いつもより目線が半分程になっていたというのもあってびっくりしてしまったんですね。

信号が変わるとパッカー車は走りだして行ってしまいました。私はまた車イスに腰掛け、父を待っていました。

すると、向こうから子供達が何人か歩いてきました。小学校から集団下校のようでした。私とすれ違う時、何人かの子供と目が合うと「こんにちは」と行儀よくあいさつをしてくれました。私も「こんにちは」と返します。

子供達が通りすぎたあとふと気づきました。

「今の子供達と目線が同じ高さだった」など……。さっきのパッカー車の事が頭によぎりました。

私達が日々仕事に使っているパッカー車、子供達の目線の高さに立つと、先程受けたあの威圧感をいつも感じさせてしまっているのではないか。

私が現在勤務している会社は、都内の同業他社と比べても、安全運転に対する向上意識が高く、毎週行われているKYT「危険予知トレーニング」に加え、ほぼ毎月全体集会を行いその中で安全運転の為の指導を受けます。

最近、ドライブレコーダーの記録映像で走行中の車の前に飛び出してくる子供の映像を見ました。

その時は正直「何で飛び出してくるんだ!」と感じてしまいました。

しかし、今回の車イスでの体験で大人の私ですら、無意識の内に立ち上がってしまった事、同じ目線で、しかも子供であるという事を考えれば、子供が予測できないような動きをする事も十分理解できる事だと思いました。

会社の指導により安全運転には少し自身のあった私ですが、それは慢心だったようです。

交通事故は、そのほとんどが「相手」があって起きています。

いくら自分自身がしっかりと交通法規を守っていても防げない事故もあるかもしれません。

だからといって「それはしょうがない。仕方ない。」では事故はいつまでたっても無くならない。

相手方の目線や、考え方にたって運転するという意識が私はまだ足りなかったと気づきました。

今回の体験は、私の今後のドライバー人生にとって、とても貴重な体験となりました。

この体験により得た「安全運転意識」を明日からの仕事に生かせる様、頑張っていきたいと思えます。